

出産、引っ越し、入学… さまざまな「お祝い・お祝い返し」

子どもの誕生や新居への引っ越し、入園や進学など、自分たちのイベント以外にも、大切な家族やお世話になった方へのお祝いごとなどライフステージにはさまざまな「贈り物」のシーンがあります。いつかに備えてマナーをチェックしてみましょう。



出産のお祝い返し

お宮参りを終えた生後1ヶ月以内を目安にお返ししましょう。ただ、出産後はなにかと多用です。多少の遅れは気にせず、ひとこと添えたうえで、2ヶ月以内でのお返しを目指しましょう。



新築のお祝い返し

新居に移ったお祝いをいただいたら、1~2ヶ月以内に「お祝い返し」を贈りましょう。気兼ねなく受け取っていただけるような食品ギフトが人気です。



入園・進学のお祝い返し

進学のお祝いをいただいたら、まずはお礼の電話やお手紙を。お子様自らがひとことお礼の気持ちを伝えると、なお良いでしょう。



長寿（賀寿）のお祝い返し

還暦(61歳)や古稀(70歳)などの長寿(賀寿)祝い。ご家族や親しい間柄ではお礼の言葉やお礼状で済ませることもありますが、豪華なお祝いをいただいた場合には、内祝いを用意しましょう。

他にもいろいろな「お祝い」があります

初誕生

赤ちゃんがはじめて迎える誕生日に、1年間健康に育ってくれたことへの祝福をこめて開かれるお祝いです。一生食べ物にこまらないようにと「一升餅」を背負わせる。本やそろばんなどを赤ちゃんの前に並べ、手にしたもので将来を占うなど、地域色豊かなお祝いが行われます。

1/2成人式

成人式の1/2、つまり10歳に成長した子どもをお祝いするイベントです。生まれてきた喜び、育ててくれた家族や周囲への感謝、将来について考えるきっかけになど、子どもと親、両方の視点から、フレッシュな節目の歳を祝います。

知っておきたいのし紙のマナー

「のし」の基礎知識

のし(熨斗)とはのし紙などの右上にある飾りのことを指します。古くは「熨斗(のし)鮑(あわび)」と呼ばれるアワビを干して伸ばしたものを飾っており、縁起の良い食べ物として贈り物に添えられていたことがはじまりとされています。現代では正式な贈り物にはのしと水引が付いた、もしくは印刷された「のし紙」をかけることが一般的になっています。

表書き

どのような目的の贈り物なのかを記入します。

名入れ

贈り主の名前を記載します。姓が一般的ですが、出産祝いの場合、お子様の名前を書くのが定番です。

内祝

鈴木

のし

黄色い紙を四角い紙で包んだ飾りです。黄色い紙は「熨斗鮑」を表しています。

水引

水引は贈る目的によって結び方や色が異なるため、シーンに合った結び方を選びましょう。

内のしと外のし

内のし

ギフトボックスや品物にのし紙をかけ、その上から包装紙でつつむ形式です。贈り物を配送する場合は、のし紙が汚れたり破れたりしづらい内のしがおすすです。

外のし

包装紙で品物を包んだあとに、のし紙をかける形式です。手渡してギフトを贈る際は、外のしを選ぶのが一般的です。

関東は外のしが主流、関西は内のしが主流など、地域差もあるようですが、選び方によって失礼にあたるということはありません。内のしは包装紙をあけるまで誰からの贈り物なのか分からないので、一度にたくさんギフトが贈られるような場面では管理しやすい外のしにするなど、状況にあわせて選ぶのが良いでしょう。

水引の種類と使い分け

祝いのし — 紅白結びきり

結びきりは結び目が簡単に解けないことから、ご結婚や快気祝いなど一度きりであってほしいお祝いごとに使用します。婚礼関係のお祝いごとの場合、紐の本数は10本、その他の場合には5本か7本を使用するのが一般的です。



祝いのし — 紅白蝶結び

蝶結びは何度でも簡単に結び直せることから、お祝いごとが何度も繰り返され続けるようにという思いが込められています。出産、長寿のお祝いごとや内祝いに幅広く使用されます。

